

平成22年生まれの私は、いわゆる「団塊の世代」の先頭に位置します。満68歳、同級生には満69歳の者もいます。彼らは「あと一年で70歳だ～」と嘆きます。もう、立派な「お年寄り」です。

先日、県立美術館へ「ピカソ展」を見に行きました。ここは無料で入れます。なんか申し訳ないような感じで、あまり得した気分にはなれません。他の人が有料なのに無料で利用できるのは、何だか落ち着きません。「お前は、もう世間の厄介者だぞ」と言われているような感じがしました（こういうのを年寄りのひがみと言う・・・）。「お年寄り」に慣れないといけません。

45歳で開業、在宅での看取りがはじまり死と向き合うようになりました。玉穂ふれあい診療所ができて、さらの多くの看取りをしています。2,000名を超える看取りをしています。そうした中で、「死」に対する見方・考え方も変わってきています。

仏教に関する書物や、先人たちの命に関する書籍などいろいろ読みあさりました。今は割とあっさりと「死は誰にも訪れるものだから、その時が来れば、はい、さよならと逝きましょう」というふうに考えています。

自分の死についてもそう思っています。しかし、現実にはこれがなかなか難しい。親から受け継いだ、田舎の売ろうにも買い手のつかない家と土地、子供たちが継承してくれそうもない先祖代々の墓、などどうしようもない問題が山積しています。このことは団塊の世代の共通課題といえます。

まだまだ世間や中央市が「働け」と当てにしてくれるようなので、私は「お年寄り」になるのはしばらく棚上げにして、もう少し頑張りたいと思っています。無理はしないようにします。皆様の助けがあってはじめてできることなのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

県立美術館などの「老人無料」は使わせていただきます！

2015年11月

医療法人どちペインクリニック

理事長 土地邦彦



開催日 決定 第14回 DPCホスピス祭り

2016年5月22日(日曜日)

医療法人どちペインクリニックのホームページを絶賛更新中!
URL: <http://www.dpc-hos.or.jp>

編集後記

診療所の暖炉にも赤々と火のともる季節になりました。今回は来年の「ホスピスカレンダー」の紹介と定期総会第II部記念講演「幸せな死とは」と題しましたシンポジウムの様子をお送りしました。カレンダーは初めての試みで装いも新たに、診療所の日常を映しています。また、シンポジウムの感動的な様子も伝われば良いと思います。ご感想をお聞かせ下さい。新年度もどうぞよろしくお願いいたします。

つくしんぼ

第30号

そうげん いってきすい

曹源の一滴水 ～一滴の水が大海となる可能性～

総会に向けての運営委員会の席で「ホスピスカレンダー」の新しい提案が出ました。診療所の若手の職員からです。日頃の写真を基にしたカラーのカレンダー！ えっ？ 写真？ カラー？ すべて新しい発想です。頭を横切ったのは……

（：はたしてこの企画うまくいくのだろうか。写真とはいってもどこまで何を表現できるのだろうか。できるだけ費用を抑えなければならない時期なのに冗談じゃない！）でも試作品を持ち込んでの提案です。何でも新しければいいって言うもんじゃありません。ゆっくりとパラパラと見ました。

ムッ？ むっ！ へえ こりゃすごい！ 暖炉の中に火がある！（火の無い暖炉は単なる物火が赤々と燃えることによって温もりが伝わり生活が見られる）理事長先生が生き生き写っている！（顔はすべてを語る！ 本来の理事長の心を写せ！）セラピードッグや猫がそれなりの役割を果たしている！……

思い切って言いました。こりゃあ素晴らしいけど 費用的にはどうなんですか？ それは大したことはありません！と答えが返ってきました。……

という訳で 今回の新しい企画のホスピスカレンダーが誕生しました。尊いことです。

山の一滴の水 たかが一滴だけど いやいやそれが集まって小川となり やがて川となり ついには大海となり 天下を潤すことができます。一滴の水にとてつもない可能性と繁栄が潜んでいます。

今回の総会で 少しずつ支援の会の会員が増えてきました。一般的な組織はややもすると 減少気味になりがちですけど 日頃の会員の皆様方のアピールや診療所にかかわる職員の皆様方の活躍によって 内容的に正しく理解されてきている表れだろうと確信いたします。

総会後のシンポジウムを見ましても 具体的に“幸せな死について”大勢の方々が納得できる「看取りの医療」が 一般市民に徐々に浸透してきていると思います。これらの事について もっと市民権を確かにするためにも 我々の活動を活発にしていきたいと思いますので これからもご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

医療法人どちペインクリニックのホスピスを支援する市民の会

代表 吉田永正



2016年度

ホスピスカレンダー

写真と感謝の言葉に、心を込めて贈るカレンダー

いのちの詩



このカレンダーは、医療法人どちペインクリニックにかかわる大勢の皆さんの幸せを願い、健康で生き生きとした生活を送っていただきたいという思いを込めて作った、オリジナルのカレンダーです。

各月ごとに診療所で撮影した写真と土地理事長の言葉を載せています。

どうぞ毎月、楽しみながらご活用ください。



くだらない 金にくだらない
財産にくだらない 地位や名誉に
くだらない それが人生の達人



嬉しいとき 悲しいとき 頑張るとき
しょんぼりするとき 心のままに
ありのままの 自分ている



3.11 けっして忘れられない
忘れてはいけない日
3.11 を心に刻んで明日を生きる



あなたの人生は どんな人生ですか
世界には その人生を全うできない
多くの子供たちがいる
平和であることの なんと尊いことか



地球 わたし達の星 この星で生きれ
この星で死ぬ あたりまえの事だが
ありがたい事だ この地球を大切にしよう



暑い時は暑さを楽しみ
寒い時は寒さを楽しむ
四季折々の楽しみがあり
日本の四季を楽しむ



選挙に行こう 主権者は私とあなた
明日の平和は この一票にある



小さな花にも 小さな虫にも みんな名前があり
生きている その小さな命に支えられ
私たちは生きている 感謝



失敗だってあるさ 人間だもの・・・
あんたが言っちゃ おしまい・・・



地に足を着けて働く 額に汗をして働く
自然は働く人々に 確かな実りと与えてくれる



苦しみの中に 希望があり
楽しみの中に 未来がある
人の命は 短かいようでも
永遠の命に つながっている



握りあう 手のぬくもりが 心を温め
気持を伝え 生命をつなぐ

2015 定期総会・記念講演(シンポジウム『幸せな死とは』)

多くの会員の皆様のご出席の下、11月14日(土)に第14回定期総会が行われました。医療・介護情勢の厳しい中、より一層の支援の和を広げていこうと確認し合い終了しました。ご協力ありがとうございました。

総会終了後、シンポジウム「幸せな死とは」が開かれ、多くの来場者にお越しいただきました。シンポジストならびに司会者がそれぞれの立場から「幸せな死」についての考えを話してくださいました。



シンポジスト

佐藤 逸子 さとう いつこ NPO 法人山梨ホスピス協会事務局長

山梨ホスピス協会の事業「ホスピス電話相談」を担当し多くの患者さんご家族との出会いと別れを経験した。玉穂ふれあい診療所で亡くなった方のご家族の手記を紹介します。「お父さんが死んでしまったことは悲しいけれど、お父さんの最期の日々に悔いはない。これは本人以上に遺された家族にとって大切なことだと知った。」(抜粋) 頂き本当に良かった!とうれしく思いました。これこそが「幸せな死」だと実感した。自分の最期はどの様に迎えたいか家族、周りの人に伝えておくことは大切です。



シンポジスト

古屋 利枝 ふるや りえ フリーランス司会者 / NPO 法人チルドリン副代表
NPO 法人チルドリンやまなし代表

数か月前に父親を事故で亡くしたばかりの母の病の告知であった。私たち姉妹の気持ちも統一できないまま、玉穂ふれあい診療所に転院してきた。死が迫りくる中、母は娘に「夢をもってがんばりなさい。」と語りかけた。わが身をもって命の教育をしてくれた母。命のバトンはつながり、娘はそれを心の支えにしている。「幸せな死とは」、その人をありのまま受け入れ、医者任せにせず、必要な治療は何なのか知ることが大切である。



シンポジスト

土地 邦彦 どち くにひこ 医師 / 玉穂ふれあい診療所

死というのは個人的でありながら普遍性を持っている。私の死に対する考えの原点にはいつも両親の“死”がある。「看取りの医療」は、病院の医療とは違う。死をあたりまえのことと受け入れ人生を全うしていく。それを支えるのが「看取りの医療」である。本人が思う「幸せな死」と、残された遺族が思う「幸せな死」、その両方が納得できる死が本当の「幸せな死」ではないだろうか。





司会者

小田切 佳仁 おたぎり よしひと 看護師・音楽療法士 / 玉穂ふれあい診療所

誰にも平等に必ず訪れる死を認め合えることです。

より良い看取りをするために、まだまだ死をタブー視する社会があるのではないのでしょうか？今回は医療法人どちペインクリニックを支援する支民の会が主導で『幸せな死とは』のシンポジウムを開催することができました。幸せな死について、答えはひとつではなく、その人その人、色や形が違ふのと同じように死に方も違います。その人らしく生をまっとうできる死に方について語り合える場があることがとても意味あると思います。その人らしく幸せな旅立ちが出来る社会を目指していききたい。そのようなコミュニティーを広げていきたいと思います。このシンポジウムがその一歩になることを祈っています。

あなたも
一緒に

DPCホスピスを 支援しませんか!?

◀ 医療法人どちペインクリニックのホスピスを支援する市民の会のご案内 ▶

医療法人どちペインクリニックのホスピスは人間としての生命の輝きを保証します。
だれでも、いつでも、自己決定で自分らしく生きることを保証します。
支援の会では、DPC ホスピス運営資金の募金活動を行っております。

DPC ホスピス運営のためにボランティア活動を行っております。

ホスピスの啓蒙運動を行っております。

そのために広く会員を募集しております。

★一般会員：2,000円 年会費 ★賛助会員：10万円以上（個人会員、法人会員）

★会費納入先：郵便振替口座 00200-7-115283

入会手続きは、下記の入会申込書を郵送、FAX、または電話でお申込みください。

医療法人どちペインクリニックのホスピスを支援する市民の会
〒409-3815 山梨県中央市成島2439番1 玉穂ふれあい診療所内
TEL：055-278-5670 FAX：055-278-5671

DPCホスピス支援の会 新規会員入会申込書

☐ 一般会員	円	氏 名	
☐ 賛助会員		電 話	
個人会員	10万円	会社名	
	円	代表者	
法人会員	10万円	住 所	〒
	円		